



主の降誕（日中）（ヨハネ 1:1-18）

今日の洗礼の恵みに日々生きていく

あらためて主の降誕おめでとうございます。主の降誕日中のミサは、ヨハネ福音書の冒頭が必ず福音朗読に選ばれます。今年は大人の方の入信の秘跡（洗礼・堅信）がこの後に控えています。そこで秘跡の恵みを思い浮かべながら学びを得たいと思います。

朗読から次の箇所を取り上げたいと思います。「しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。」

（1・12）「言（ことば）」と表されているのはわたしたちのために人となってくださったイエス・キリスト、昨夜から馬小屋で飼い葉桶に寝かされている乳飲み子として人類に与えられた救い主のことです。神が、人間の救いのために、民全体に与えられる大きな喜びとして御子を世に与えてくださいました。ここにいるわたしたちは、そのことを信じて、こうして集い、祝っているのです。

しかし、もしここにいる誰かが、「今年もクリスマスにミサに来ました。では来年のクリスマスまでさようなら。また会いましょう」と言うなら、その人はクリスマスの一瞬、イエス・キリストを受け入れただけで、毎日曜日、毎瞬間、イエス・キリストに導かれて生きる道を選んでいるとは言えないと思います。

先ほどの引用箇所でヨハネ福音記者が言いたいのは、一瞬イエス・キリストを受け入れるだけでなく、今日も明日も、イエス・キリストがわたしを神の子としてくださる、神の子として導いてくださると信じ続ける必要性を強調しているのです。

さて今日は、入信の秘跡を受けるために長い準備をしてこられた方がその時を待っています。洗礼・堅信の秘跡は、言ってみれば今日一日の出来事です。しかし、神の恵みによって生きる生活は、今日から日々積み重なっていくものなのです。洗礼によって原罪と自罪のすべてが赦された。赦されて神の子となっただけでなく、今日から、わたしを変えてくださったイエス・キリストに感謝して過ごす日々が始まるのです。

入信の秘跡を終えている皆さんも、今日洗礼を受ける方を見守りながら考えましょう。わたしたちは、今日の入信者よりも一日の長があるものとして、日々イエス・キリストの恵みと導きに信頼して歩み続けます。その約束を、今日の入信者と共に神におさげします。こうしてわたしたちは、互いに喜び合い、神の恵みを感謝し合い、神の子となる資格を日々新しくしていくのです。

ではこれから、入信の秘跡である洗礼と堅信の秘跡に移りたいと思います。洗礼を受けてからは、ここにいる皆さんが兄弟姉妹です。分からないことは教えてください。困ったことは教えてください。信頼して、神にご自身をお委ねしましょう。